

# まちづくりについて

本年10月、旭町明神町地区に東京都の産業交流センター(たま未来メッセ)がオープンしました。同時に、隣接していた八王子市の保健所も同施設内に移転し、保健所跡地は広場として整備される予定です。ここでより一層八王子駅周辺のまちづくりを魅力あるものにするため、東京都の旧合同庁舎跡地を含めた旭町明神町地区再開発をスピード感をもって進めていかなければなりません。本腰を入れた再開発事業への具体的な道筋を示すべきと提案しました。私としては、たま未来メッセとの相乗効果を得る意味でも、渋谷の宮下パークのような宿泊・レセプション施設と商業施設、市民が憩える空間が共存する場所として再開発が出来るといいと考えています。



また、たま未来メッセの南側を流れる人工の小川の水は、近くにある子安神社に湧き出る湧水をくみ上げたものです。本来湧水を下水に放流すると、その処理費用を市が負担することになってしまうのですが、これを逆手にとって有効活用したものです。以前に私は潤いのある都市空間ということで、この設計にあたって議会で取り上げさせていただきましたが、実現できたことに嬉しく思うとともに、多くの方に親しまれる空間となってほしいと思います。

八王子駅周辺には八王子盆地の大量の地下水が流れています。北口地下市営駐車場でも、毎年大量の地下水をくみ上げ、処理する多大な費用がかかっています。今後、このような地下水の有効利用として熱交換の技術を利用した、環境負荷の少ない地域冷暖房の導入などより積極的に検討していくべきだと思います。



発行所：安藤修三後援会事務所：八王子市散田町1-7-2  
 TEL & FAX 042-664-1920 後援会会報 【討議資料】  
 メール：office@osami-ando.com

立憲民主党 立憲民主編集部  
 〒102-0093  
 東京都千代田区平河町 2-12-4  
 ふじビル3F  
 Tel. 03-6811-2301  
 Fax. 03-6811-2302



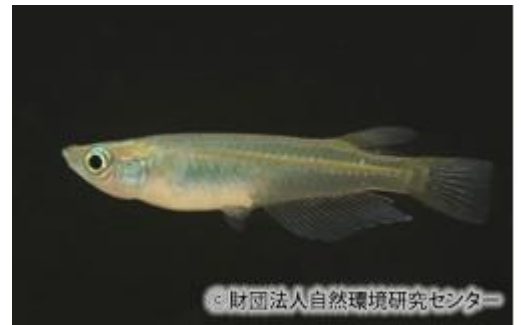
## 生物多様性地域戦略が予算化、プラごみ削減への提案

今、人類が環境に及ぼす負荷によって地球史の中で最も早い、尋常ではないスピードで生物の多様性が失われていっているといわれています。人類が誕生し、文明社会を構築するまでの時代には、恐竜絶滅時代を含めて約千年で1種が絶滅する程度でしたが、1,975年以降は1年間で4万種もの動植物が地球上で絶滅しているといわれています。

そのような中、平成20年に国において生物多様性基本法が制定され、その基本法の中で各地方公共団体における、生物多様性地域戦略の策定が努力規定として盛り込まれました。私たちは、多様な生物がパズルのように複雑で絶妙なバランスの上に作り出す自然の生態系から様々な恩恵を受けています。生物多様性地域戦略とは、「絶滅危惧種を守ろう!」というだけでなく、生態系からの恩恵をより私たちの生活に取り入れ、暮らしや経済をより豊かにしていくためにどのようにしていけばいいかを考え、策定するものです。この生物多様性地域戦略策定に関して、令和元年の一般質問で提案し、今年の当初予算において計画策定の予算が計上されました。今後、日本一の生物多様性の宝庫、高尾山(植物種は1600以上、イギリス全土で自生する種類の数に匹敵)がある八王子市に相応しい地域戦略が、市民との協働で策定されるよう、取り組みを続けます。

環境分野で関連して、プラごみ削減への取り組みについても提案しました。近年コロナの影響で、テイクアウトなどの需要が増える中プラスチックごみの量は増加傾向にあります。今後市内事業者(スーパーや飲食店など)と連携し、簡易包装の取り組みや社会実験を通じた先進的なプラごみ削減への取り組みを提案しました。

また、八王子市は「ごみの少ない街(50万人以上)全国一位」というのは聞いたことがある方も多いと思います。まさに市民と行政の努力の結晶だと思えます。一方で「環境にやさしい都市」としてのブランドイメージがあまり内外に認知されているとは言えません。今後市として市内外へ積極的にこのブランドイメージを浸透させ、市の魅力向上に市役所横断的に取り組むよう提案しました。



メダカ

